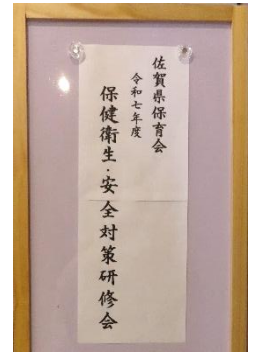


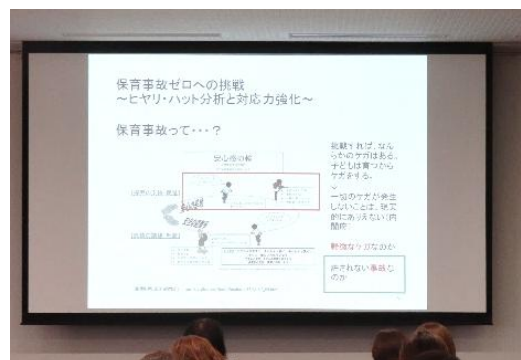
## 「令和7年度 保健衛生・安全対策研修会」 報告書



- 【期 日】 令和7年7月30日（水）  
【会 場】 佐賀県社会福祉会館 2階 大研修室  
【主 催】 佐賀県保育会  
【参加人数】 83名 （集合46名 オンライン37名）  
【内 容】 研修1 12:30～16:30

「保育事故ゼロへの挑戦 ～ヒヤリ・ハット分析と対応力強化～」

講師：春高 裕美氏（長野県立大学 こども学科 准教授）



ねらい

- ① ヒヤリ・ハットをただの記録で終わらせず、行動に繋げる分析力・予防の視点を養う
- ② 事例から重大事故に発展するプロセスを読み取り、先手を打つ
- ③ 共有する文化、声かけ、環境調整など対応力を強化する
- ④ 事故ゼロは理想論では終わらせない

- 軽微な**ケガ**であっても、保護者と**リスクコミュニケーション**をする  
伝え方のコツー発達段階とともに起きやすいケガ・トラブルを先に伝える  
「起きてからではなく、起きる前に」伝える。
  - ・ かみつき ・ ひっかき ・ 転んで膝を擦りむいた など

- ヒヤリ・ハット分析と対応力強化  
事故はいつ起こるのか？
  - ◎ スイスチーズモデル（～だったらなど、悔やまれることばかりが重なっている）
  - 事故はいくつかのチェックポイントが全部外れた時に起こる

- 許されない事故とは
  - ・ 死亡事故
  - ・ 重症の事故
  - ・ 後遺症が残る事故
  - ・ 一生残る傷（心身の傷）（他の人に情報を漏らすなど）
  - ・ 育ちとは関係のないケガ（やけどをさせるなど）

- 事故を防ぐ無数の分かれ道  
（分岐点・チェックポイント）
  - ・ 立ち会った人の判断
  - ・ 立ち会った人の行動
  - ・ 職場の人間関係

●ヒヤリ・ハットには2パターンある

◎水・睡眠事故はヒヤリ・ハットすらなく、その日に限っておきている。

○気づきを事故予防につなげる

・付箋法（気づきを付箋に記入し、職員が見える場所に貼っておく）

◎ヒヤリ・ハットを事故予防につなげる

○自園のヒヤリ・ハットを書き出してみる

○園内見取り図にシールを貼り、ヒヤリ・ハットの起きやすい場所を特定する

・1か月に1回貼りかえる（場所を特定するだけではだめ。対策を考える。）

・同じシールを2枚準備する（見取り図とグラフに貼る）

・対策を考え記録しておく（1年間ためて監査提出する）

●過去の事例から事故予防につなげる（軽微な事故）

◎過去の重大事故から学ぶ～事例〔園外保育 置き去り〕～

○連携不足 普段からの意識不足

・事前に散歩計画・責任者を決め報告していく

・散歩計画書は行く前、行った後に記入（保育のねらい）

・具体的な対応の細かい打ち合わせをする

・途中で園に電話する

・ルートマップ（A、B、C）ルート、ハザードマップ（書き加えたり、危険箇所を把握する）

○散歩のルール

1. 人数確認（人物・名前が一致しているか）

2. 体調の確認

3. 帰園後の活動を落ち着く活動にする

（気分が高揚しているのでアクティブな活動より落ち着いた活動をして異変の見守りにする）

～事例〔腹痛の〕～

●救急車を呼ぶか迷ったら（悩む～?!動かしていいのか、どうやって運ぶのか）

**動かしていいか？**

動かしていい（首や腰の損傷の場合は、移動してはいけない）

→救急車を呼ぶ（119番）→救急隊員に指示をもらう

**どうやって運ぶのか？**

→わからない時は、その子の**安楽な体位**で運ぶ

◎Q助（全国版救急受信アプリ：総務省消防庁）の活用

●重大死亡事故～事例〔転倒時に腹部を打った：腹部臓器の損傷による出血性ショック〕～

○こどもの急変

顔色不良（青白い時→ショック状態）

機嫌が悪い

嘔吐・吐き気お腹が痛い！

（決めつけず、要注意！お腹を打ったら病院へ）

あまり良くない症状

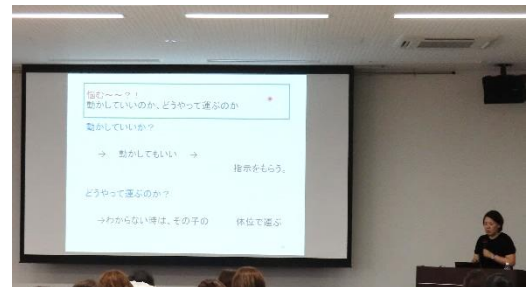
○見極めが大事

保育所での腹痛の訴え…意外と多い

2歳以下 **腸重積** イチゴゼリーのような血便が出る

（20分くらい泣いて、ピタッと泣き止むを繰り返すのが特徴）

年長児 **虫垂炎** どちらかというと右側の腹を痛がる



～事例［ピンセットが臉に刺さり、脳内出血を伴う重傷を負った］～

- 事故は、いくつかのチェックポイントが全部外れた時に起こる
- ◎ふだん意識されていない無数の見落とし（気づきを事故予防につなげる）
  - ・ピンセットの使用と管理が不適切

→持ち込む際は管理職に確認し、管理を徹底する

- ・危険性に対する職員の注意喚起が不十分
- こどもが、自由に持ち出せないようにしておく
- ・園庭での自由遊び中の**職員の見守りが不十分**だった
- 担任不在時の、こどもの活動検討と職員の配置



～事例［熱中症による死亡事故］～

- 事例から学ぶこと
- 見極めが大事・スイスチーズモデル～どこかの穴がずれれば事故は起こらない～
  - ・WBGT（熱中症予防運動指針）の活用—活動の中止（行先の変更）
  - ・傷病者搬送用の公用車等の出動（待機）—具合が悪い人が出た場合を考えて
  - ・周辺施設に臨時のクーリングスポット協力要請（何かあった際に要請できるように）

～事例［バス置き去り死亡事故］～

- 事故から学ぶこと
  - 運転手は園長（70代男性）で、普段の運転手が休みだったため代行
- 乗降時の人数確認を怠り、園児全員が降りたかどうか確認しなかった

～事例［離乳食を喫食中に窒息状態になった事故］～

- 事故から学ぶこと
  - 事故はいくつかのチェックポイントが全部外れた時に起こる
    - ・担任措置→乳児保育の経験の浅い先生ばかりでクラスを持たせている
    - ・リンゴは加熱して提供するようになっている（生リンゴはダメ!!ドロツとしたもの）
- 園児が、園にも慣れていない子に、リンゴを与えなくてもよかったのではないかな？
- ・泣いている場合（気分を切り替えて与える）
  - ・職員全員で救命救急法を受ける（乳児にハイムリックはしない）
- 下を向けて、背中を叩くようにする

～事例［園庭の築山（人口の土の山）に設置された遊具での事故］～

- 報告書から学び事故予防につなげる
  - ◎ロープの危険性（建築用ロープであり、保育用ではなかった）
- 持ち込む前に、使用していいか上司に相談する
- ・使用後も、複数の目で見ると（使用した後も再検討する）
- 職員会議の情報伝達不足（注意喚起を周知する組織的な仕組みがなかった）
- ・救命措置
- 救命講習の研修の少なさは指摘されたが、救命措置そのものは、一連の手順に沿った対応がなされ、現場で出来る可能な措置が行われていたことが確認されている

#### ガイドラインの概要

死亡事故や重篤事故の対応を念頭に置いて作成されている

- ① 施設・事業者向け（保育所の）事故防止のための取り組み
- ② 地方自治体向けの事故防止の取り組み
- ③ 事故発生時の対応

●睡眠時の死亡（SIDSを含む）事故予防対策

- ・乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる
- ・よだれかけ等は外す
- ・固い寝具を選ぶ・ぬいぐるみ等を使用しない
- ・睡眠時の呼吸確認をする
- ・吐物などがないか、確認する
- ・長期的な予防として、母乳で育てる
- ・暖めすぎない
- ・掛け布団の代わりに、服装等で温度調整を

・1歳未満のこどもにおいては、掛け布団は使用せず服装等で温度調整しましょう

◎どのように睡眠時の生存・安全確認をする？

- ・腹の動き ・寝息 ・刺激 ・吐物 ・体位 ・モニター（気づきの付箋）



●プールの事故を予防するには～認識を海や川と同じにする～

◎安全のガイドラインには

- ・監視者は監視に専念する→スマホ厳禁
- ・監視エリア全域をくまなく監視する
- ・動かない子ども不自然な動きをしている子どもを見つける
- ・規則的に視線を動かしながら監視する
- ・十分な監視体制が確保できないときは、プール活動を中止も選択肢とする

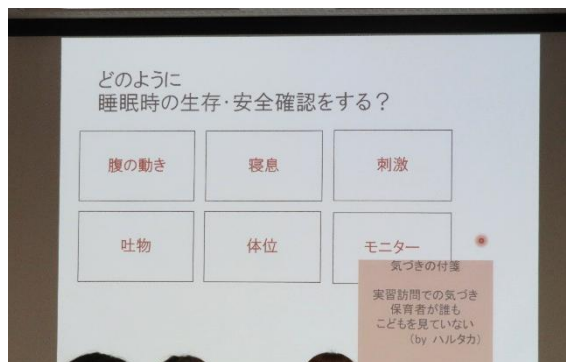
○プールでおぼれてしまったら

- ・意識のない状態で引き揚げられた。1番にすることは？
- ・胸骨圧迫を行う（呼吸をしていた時は別）

～事例「園庭に設置された手製のプールでの死亡事故」～

●報告書から学び事故予防につなげる

| 事故調査委員会指摘事項     | 提言                                                            |
|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| 監視する保育者 監視専念    | 例：ビブス、たすき、腕章、帽子等の着用<br>異常を知らせる笛、携帯電話、インカム、拡声器                 |
| 急変時にはすぐ対応できるように | 応援職員をプール活動の実施前に指名しておくべきである                                    |
| プール活動の目的を明確に    | 汗取り目的…シャワーでOK<br>水泳指導…指導員を別途配置<br>水遊び…年齢に応じた水深（その年齢の最も身長の高い子） |
| 異年齢児でのプール       | 異年齢児の同一時間、同一プールは原則禁止（体格差）                                     |
| 午後のプール活動        | 午睡時→しっかり覚醒しているか、おやつ後→1時間は空けたい                                 |



## 【まとめ】

- 事故防止のために1番大切なことは・・・

風通しの良い人間関係←これを忘れてはいけない！

- ・科学的根拠 2025年の「今」で判断することである

◎重大事故から学ぶこと 気づきを拾いあげる

- お土産カルタ

◎どの年齢にも共通する 子どもの体調観察

- ・食う ・寝る ・遊ぶ、3つできない、ハイ！受診！



## 【感想】

日頃保育中に起こる軽微なケガが発生しないことは、本当にあり得ないが軽微なケガであっても、保護者とリスクコミュニケーションしていく大切さを再認識できた。また、普段の保育現場で起こりうる、ケガや事故に対する対応力強化についても職員全員の認識を深め、安全対策に取り組むことが必須だと感じた。そのためには風通しの良い関係性であるよう職場の人間関係を良好にできるよう努めていきたい。

(文責：社会福祉法人太陽の子 あおいとりこども園 大坪 ひとみ)